

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671500357
法人名	有限会社 シルバーケア
事業所名	グループホーム 春日苑
所在地	徳島県板野郡松茂町広島字四番越11番5 (電話) 088-699-0202

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3 月 12 日

## 【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 はな組 7人, つき組 6人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	共益費12,000円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.33 歳	最低	64 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・原田医院 ・仁木歯科医院
---------	---------------

徳島県 グループホーム春日苑 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所はゆったり流れる川沿いの高台にあり、葎が風に揺れて静かな風景が眺められる。平屋建ての内部は、2ユニットが自由に交流できるようになっている。看護職員3名の配置とともに、協力医院との医療連携体制をとっている。近所の店で買い物をしたり、役場は緊急時の避難場所として利用するようになっていたりして地域との連携が図られている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である「パンフレットなどへの運営理念の表記」、「分かりやすい位置への時計の配置」、「定期的な避難訓練の実施」、「研修計画の作成」はすべて改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニット毎に全職員で話し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、行政職員、地域包括支援センター職員、民生委員、長寿会会長、自治会会長、他のグループホームの職員、事業所の関係者によって構成されている。また、他のグループホーム職員と運営状況や行事の報告、非常災害時の対応方法などを協議する相互交流する機会を持っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「意見箱」を置き、その担当者も決めて苦情、要望にはすぐ対処している。「重要事項説明書」に公的機関に申し出ることができることも明示し、利用者、家族に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩のときには挨拶を交わしたり、ゴミ袋や金はさみを持っていきゴミ拾いをしたりと積極的に地域との交流が図れるよう工夫している。地域の人からは季節の野菜をもらうなど双方向的な交流も行っている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を反映し、地域との関係を重視した事業所独自の理念が作成されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	苑内の玄関やホール、職員の部屋に理念を掲示し、毎日の申し送り時に再確認しながら、理念に基づいたケアが実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩のときには挨拶を交わしたり、ゴミ袋や金はさみを持っていきゴミ拾いをしたりと積極的に地域との交流が図れるよう工夫している。地域の人からは季節の野菜をもらうなど双方向的な交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、課題の改善に向けた取り組みに参加している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、行政職員、地域包括支援センター職員、民生委員、長寿会会長、自治会会長、他のグループホームの職員、事業所の関係者によって構成されている。また、他のグループホーム職員と運営状況や行事の報告、非常災害時の対応方法などを協議する相互交流する機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関する相談等、市町村担当者とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「春日苑だより」を発行し、暮らしぶりや健康状態の報告を行い、健康状態に変化があった時などは、すぐに電話で報告している。金銭管理については便りを送る時に詳細を添付しているが家族が確認したことが分かるものはない。	○	金銭管理については来訪時にサインをもらう等、家族が確認したことが分かるような仕組み作りが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や担当窓口を設置している。出された要望等はすぐに対応し、記録に残されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職したときなどは説明を行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、段階に応じた研修が受けられるよう取り組んでいる。また、内容は記録に残し職員間で共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修に参加したり他事業所の職員と情報交換したりしている。また、近隣のグループホーム職員と運営推進会議に相互出席し、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフは利用希望者の家庭を訪問し、要望や状態等の情報収集に努めている。利用者には事業所の見学をしてもらう等、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の調理や盛り付け、洗濯物たたみ等、利用者と一緒に楽しみながら生活できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	踊りや歌、ピアノ、写経など一人ひとりの思いや希望にそった生活ができるよう、周りの人たちを気にすることなく楽しめるよう音への配慮をした居室の配置を工夫するなど、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望、日頃の様子などを話し合い作成している。利用者の立場に立った視点から本人本位の計画となるよう工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回と心身の変化がある時など随時の見直しをしている。利用者や家族、医師等関係者と連携し、現状に即した計画を作成している。また、家族のサインもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、健康面で安心感がある。また、利用者や家族の要望に応じて、受診支援など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医を把握し、状態に応じた適切な医療が受けられるよう支援している。また、看護師を3名配置し、医療ニーズに素早く対応できるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、家族や医療機関、職員等関係者間で話し合い、方針を共有できる仕組みが作られている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、「利用契約書」に明記し、利用者や家族に説明している。また、利用者への言葉かけなどはさりげなく行い尊厳を傷つけないよう配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに配慮しながら、踊りや歌、写経などの趣味を続けられるよう希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けなど一人ひとりの力を活かしながら、利用者と職員と一緒に楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴やシャワーができるような仕組みを作っており、利用者の希望を聞いて実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯物たたみ等の役割や、踊り、歌、ピアノ等の趣味、写経等の生きがいを楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然の光や風を十分楽しむことができる庭や近所への散歩など、体調や希望に配慮しながら支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解し、日中は施錠していない。外に出たがる利用者に対しては、玄関センサーで位置を把握したり、さりげなく外出の見守りを行ったりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員立ち会いのもと年2回避難訓練を行っている。また、運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専任の栄養士によって栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事、水分摂取量は毎回記録に残し、看護職員による栄養状態の管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計やカレンダーは見やすい位置に配置されている。また、花や雛人形など季節感を感じられる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や手作りの小物、家族との思い出の写真等、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。		